

女って、鋭いなあ

健ちゃんは、電車道に出ると、手をあげ、タクシーを止めた。僕は、少し、変な感じだった。

タクシーを飛ばして、「玄たく」の方向の、高台の丘の上の家の前にタクシーを止めた。

健ちゃん、ニコニコしながら、「御免ください。」と声をかけた。

すぐに、玄関から、うす水色のスカートをはいて、白いブラウスに、白いカーデガンをかけた女の人が出てきた。

あれ、まあ、女の人である。

「健ちゃん、いつの間に、こんなきれいな人と？」
と思ったが、そんな事、口に出せるもんじゃない。

僕を「弟みたいなもの、
久しぶりに会いに来てくれたんで、」と紹介した。

僕も「はじめまして」とお辞儀した。

「高田はん、会社の仲間や。」と健ちゃんは僕に紹介した。

目がぱっちりして、鼻すじが通り、
きれいな、すらっとした人だった。

そこから、表の道へ出て、タクシー来るのを少し待って、
宝ヶ池へ向かった。